

兵庫労働局発表
令和7年6月3日

[照会先]
兵庫労働局労働基準部安全課
安全課長 洲崎 正博
課長補佐 西脇 省悟
(直通電話) 078 (367) 9152

報道関係者 各位



兵庫県内の「令和6年 労働災害発生状況」について

～ 死亡者数は過去最少（25人）となった令和5年より6人増加 ～

あかまつ としひこ

兵庫労働局（局長：赤松 俊彦）では、このたび、兵庫県内の「令和6年 労働災害発生状況」を取りまとめましたので公表します。

令和6年1月から12月までの新型コロナウイルス感染症へのり患（以下「コロナ」という。）を除いた労働災害による死亡者数（以下「死亡者数」という。）は、31人（前年比6人増）となりました。

一方で、休業4日以上之死傷者数（以下「死傷者数」という。）は5,222人（前年比56人減）で、令和2年から対前年比で4年連続増加しておりましたが、減少となりました。

令和7年度は、労働災害の減少に向け、「兵庫第14次労働災害防止推進5か年計画」（令和5年度から令和9年度の5年間）の3年目として、建設現場等における足場等の高所からの墜落・転落災害、陸上貨物運送業において多発している荷役作業中の災害の防止対策の徹底、小売業及び社会福祉施設で多発している労働者の作業行動が起因して発生する転倒や腰痛等（行動災害）による労働災害防止を図るための意識啓発を通じた自主的な安全衛生活動の普及・定着等を重点に取り組みます。

また、全国安全週間（7月1日～7日）とその準備月間（6月1日～30日）では、兵庫労働局、県下労働基準監督署から事業場、関係業界団体等に対して、積極的な労働災害防止活動の実施を要請します。

【令和6年労働災害発生状況の分析等の概要】

労働災害発生状況の主な概要

1 死亡者数 ※1

死亡者数は31人となりました。

業種別に多い順で見ると、「建設業」9人、「製造業」7人、「陸上貨物運送業」4人、「清掃・と畜業」4人、「その他の事業」4人となっています。

「商業」は前年比で3人減少し0人となりましたが、一方で、「製造業」（対前年比1人増加）、「建設業」（対前年比1人増加）、「陸上貨物運送業」（対前年比4人増加）、「清掃・と畜業」（対前年比3人増加）が増加となり、特に「建設業」は、令和3年から3年連続8人、令和6年9人と減少傾向がみられない状況にあります。

【別添 グラフ1、表1 参照】

2 死傷者数 ※2

死傷者数は5,222人となりました。

業種別に多い順で見ると、「製造業」1,059人（前年比81人・7.1%減）、「商業」861人（前年比3人・0.3%増）、「保健衛生業」800人（前年比11人・1.4%増）、「陸上貨物運送業」630人（前年比5人・0.8%増）、「接客娯楽業」425人（前年比46人・12.1%増）、「建設業」400人（前年比38人・8.7%減）となっています。

【別添 グラフ2、グラフ3、表3 参照】

3 事故の型別

死亡者数を事故の型で見ると、多い順で、「墜落・転落」10人、「交通事故（道路）」6人、「崩壊・倒壊」、「はさまれ・巻き込まれ」がそれぞれ3人となっています。

「激突され」（2人、前年比2人減）、「転倒」（2人、前年比1人減）は減少しましたが、一方で、「墜落・転落」は、前年比で4人の大幅増加となり、また、「崩壊・倒壊」も前年比で2人増加しました。

なお、熱中症による死亡者数は0人でした。

【別添 表2 参照】

死傷者数を事故の型別で見ると、多い順で、「転倒」1,375人（前年比88人・6.0%減）、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」838人（前年比38人・4.8%増）、「墜落・転落」747人（前年比20人・2.8%増）、「はさまれ・巻き込まれ」537人（前年比31人・5.5%減）、「交通事故（道路）」321人（前年比17人・5.6%増）となりました。

【別添 グラフ4、表4 参照】

事故の型別ごとに死傷者数が多い業種を順で見ると、「転倒」は、「保健衛生業」281人、「商業」268人、「製造業」216人となっており、「墜落・転落」は、「陸上貨物運送業」148人、「建設業」130人、「製造業」122人となっています。

【別添 表5 参照】

なお、最も多い「転倒」災害を詳しく見ると、76%が50歳以上で発生しており、その中でも、50歳以上の女性が50%を占めています。

【別添 グラフ5 参照】

4 年齢別

死傷者数を年齢別で見ると、多い順で、「60 歳～」1,532 人、「50 歳～59 歳」1,480 人、「40 歳～49 歳」891 人、「30 歳～39 歳」625 人、「20 歳～29 歳」589 人、「～19 歳」105 人となっています。

【別添 グラフ 6、表 6 参照】

5 災害の程度別

死傷者数を災害の程度別に見ると、多い順で、「2 週以上～1 月未満」が 2,154 人、「4 日以上～2 週未満」1,216 人、「1 月以上～3 月未満」998 人、「3 月以上～6 月未満」687 人、「6 月以上」136 人となっています。

【別添 グラフ 7、表 7 参照】

※ 1 死亡災害報告をもとに、死亡者数を集計。

※ 2 事業者から提出される労働者死傷病報告をもとに、死亡者数及び休業 4 日以上の死傷者数を集計。

なお、これらの件数に通勤中に発生した災害の件数は含まない。

兵庫県内の「令和6年 労働災害発生状況」の分析

目 次

1 概 況	P 2
2 死亡者数	P 3
(1) 業種別	P 3
(2) 事故の型別	P 4
3 死傷者数	P 4
(1) 業種別	P 4
(2) 事故の型別	P 5
(3) 年齢別	P 7
(4) 災害の程度別	P 8

参照資料のご案内

労働災害発生状況の詳細資料につきましては、当局ホームページの「事例・統計情報」をご覧ください。

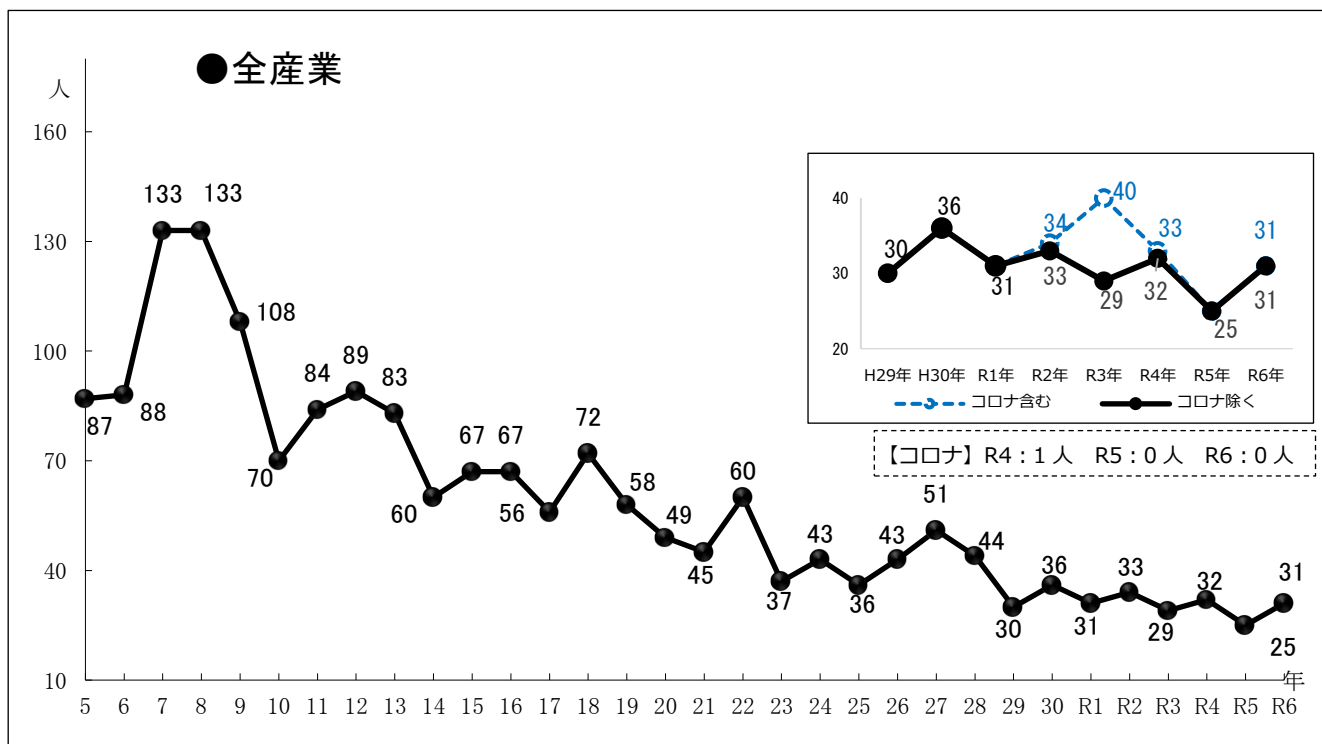
1 概 況

令和6年1月から12月までの新型コロナウイルス感染症へのり患（以下「コロナ」という。）を除いた労働災害による死亡者数（以下「死亡者数」という。）は、31人（前年比6人増）となりました。休業4日以上之死傷者数（以下「死傷者数」という。）は5,222人（前年比56人減）で、令和2年から対前年比で4年連続増加しておりましたが、減少しました。

令和7年度は、労働災害の減少に向け、「兵庫第14次労働災害防止推進5か年計画」（令和5年度から令和9年度の5年間）の3年目として、建設現場等における足場等の高所からの墜落・転落災害、陸上貨物運送業において多発している荷役作業中の災害の防止対策の徹底、商業及び保健衛生業で多発している労働者の作業行動が起因して発生する転倒や腰痛等（行動災害）による労働災害防止を図るための意識啓発を通じた自主的な安全衛生活動の普及・定着等を重点に取り組みます。

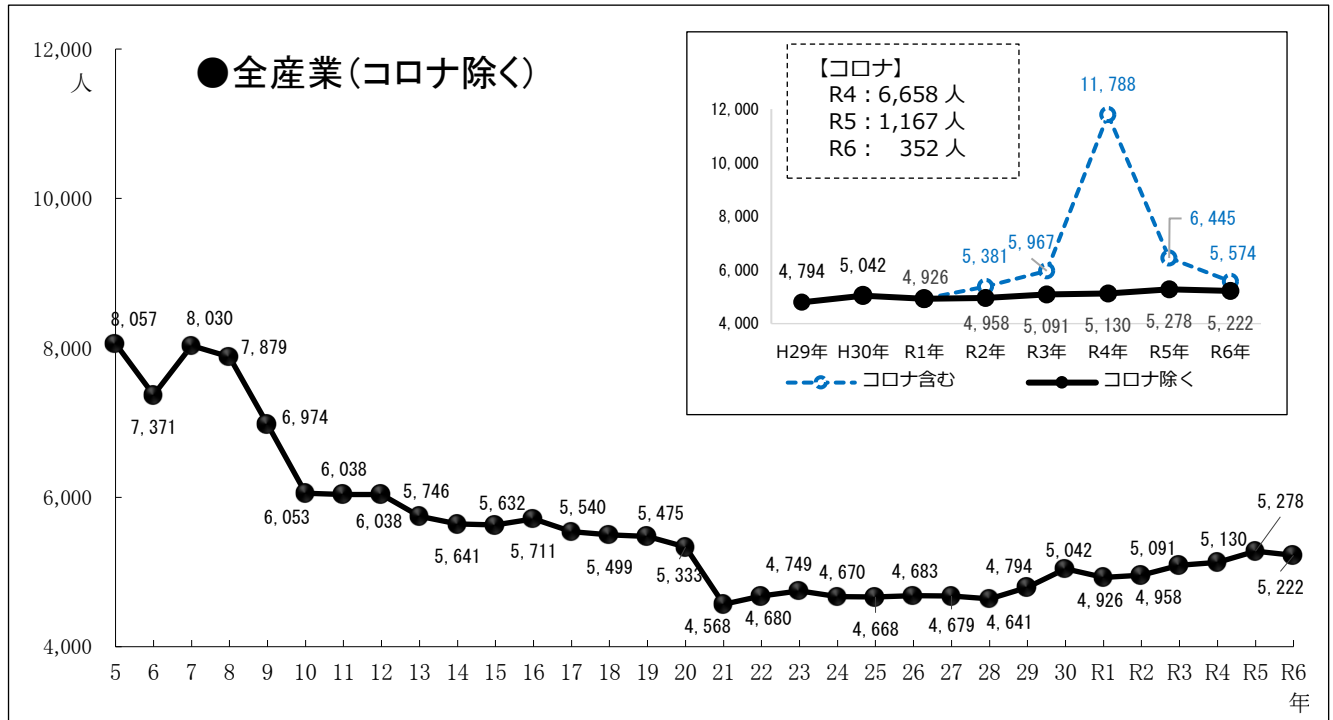
また、全国安全週間（7月1日～7日）とその準備月間（6月1日～30日）では、兵庫労働局、県下労働基準監督署から事業場、関係業界団体等に対して、積極的な労働災害防止活動の実施を要請します。

グラフ1 死亡者数の推移



資料出所 死亡災害速報

グラフ 2 死傷者数の推移



資料出所 労働者死傷病報告

2 死亡者数

(1) 業種別

死亡者数 31 人を業種別で見ると、「建設業」9 人でもっと多く、次いで「製造業」7 人、「陸上貨物運送業」4 人、「清掃・と畜業」で 4 人発生しています。

「商業」は 0 人と前年比で 3 人減少した。一方で、「製造業」（前年比 1 人増加）、「建設業」（前年比 1 人増加）、「陸上貨物運送業」（前年比 4 人増加）、「清掃・と畜業」（前年比 3 人増加）が増加となり、特に「建設業」は、令和 3 年から 3 年連続 8 人、令和 6 年 9 人と減少傾向がみられない状況にあります。

他業種と令和 4 年以降の年別発生状況は、表 1 のとおりです。

表 1 業種別・年別 死亡者数の推移（人）

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 5 年／令和 6 年	
				増減数（人）	増減率
全産業	32	25	31	+6	+24.0%
製造業	8	6	7	+1	+16.7%
建設業	8	8	9	+1	+12.5%
陸上貨物運送業	1	0	4	+4	- - -
林業	0	1	1	0	0%
商業	5	3	0	-3	-100.0%
保健衛生業	1	1	0	-1	-100.0%
清掃・と畜業	2	1	4	+3	+300.0%
上記以外の業種	7	5	6	+1	+20.0%

(2) 事故の型別

死亡者数を事故の型で見ると、多い順で、「墜落・転落」10人、「交通事故（道路）」6人、「崩壊・倒壊」、「はさまれ・巻き込まれ」がそれぞれ3人となっています。

「激突され」（2人、前年比2人減）、「転倒」（2人、前年比1人減）は減少したが、一方で、「墜落・転落」は、前年比で4人の大幅増加となり、また、「崩壊・倒壊」も前年比で2人増加しました。

なお、熱中症による死亡者数は0人でした。

表2 事故の型別 死亡者数の推移（人） 令和6年の多い順に上位4型

	令和4年	令和5年	令和6年
墜落・転落	7	6	10
交通事故（道路）	5	5	6
崩壊・倒壊	1	1	3
はさまれ・巻き込まれ	7	3	3

3 死傷者数

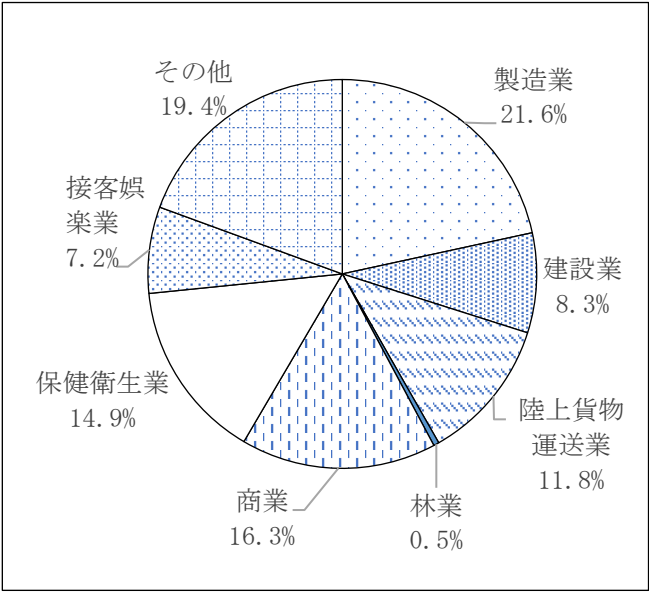
(1) 業種別

死傷者数 5,222 人を事故の型別で見ると、多い順で、「製造業」1,059 人（前年比 81 人・7.1%減）、「商業」861 人（前年比 3 人・0.3%増）、「保健衛生業」800 人（前年比 11 人・1.4%増）、「陸上貨物運送業」630 人（前年比 5 人・0.8%増）、「接客娯楽業」425 人（前年比 46 人・12.1%増）、「建設業」400 人（前年比 38 人・8.7%減）となっています。

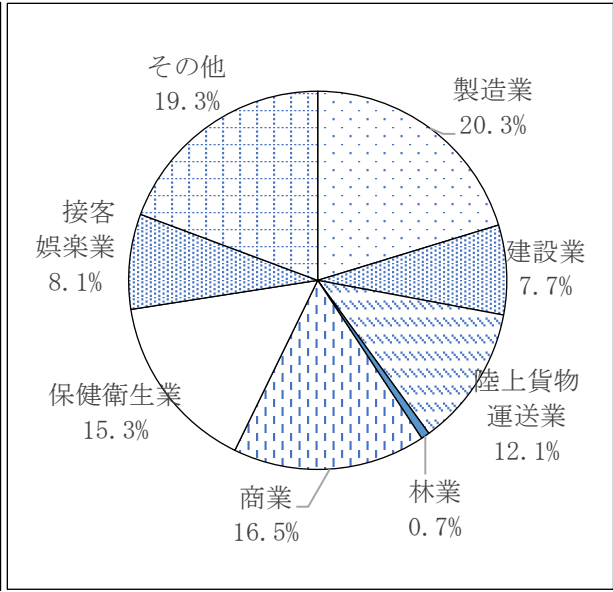
表3 業種別（主要業種）死傷者数の推移（人）

	令和5年	令和6年	令和5年／令和6年	
			増減数（人）	増減率
全産業	5,278	5,222	-56	-1.1%
製造業	1,140	1,059	-81	-7.1%
建設業	438	400	-38	-8.7%
陸上貨物運送業	625	630	+5	+0.8%
林業	24	38	+14	+58.3%
商業	858	861	+3	+0.3%
保健衛生業	789	800	+11	+1.4%
接客娯楽業	379	425	+46	+12.1%
上記以外の業種	1,025	1,009	-16	-1.6%

グラフ3 業種別（主要業種）死傷者数の構成比
【令和5年】



【令和6年】



(2) 事故の型別

死傷者数を事故の型別で見ると、多い順で、「転倒」1,375人（前年比88人・6.0%減）、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」838人（前年比38人・4.8%増）、「墜落・転落」747人（前年比20人・2.8%増）、「はさまれ・巻き込まれ」537人（前年比31人・5.5%減）、「交通事故（道路）」321人（前年比17人・5.6%増）となっています。

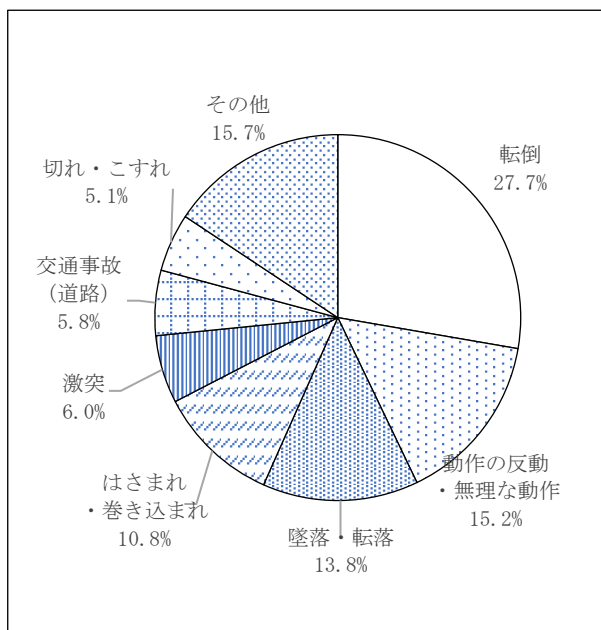
事故の型別による業種別の死傷者数が多い順でみますと、「墜落・転落」は、「陸上貨物運送業」が最も多く148人で、次いで多いのが「建設業」130人、「製造業」122人となっており、「転倒」は、「保健衛生業」が最も多く281人、次いで「商業」268人、「製造業」216人となっています。

なお、最も多い「転倒」災害を詳しく見ると、76%が50歳以上で発生しており、その中でも、50歳以上の女性が50%を占めています。

表4 事故の型別 死傷者数、対前年増減率 令和6年の多い順に上位5型

	事故の型	死傷者数（人）		令和5年／令和6年	
		令和5年	令和6年	増減数（人）	増減率
1	転倒	1,463	1,375	-88	-6.0%
2	動作の反動・無理な動作	800	838	+38	+4.8%
3	墜落・転落	727	747	+20	+2.8%
4	はさまれ・巻き込まれ	568	537	-31	-5.5%
5	交通事故（道路）	304	321	+17	+5.6%

グラフ4 事故の型別 死傷者数の構成比
(令和5年)



(令和6年)

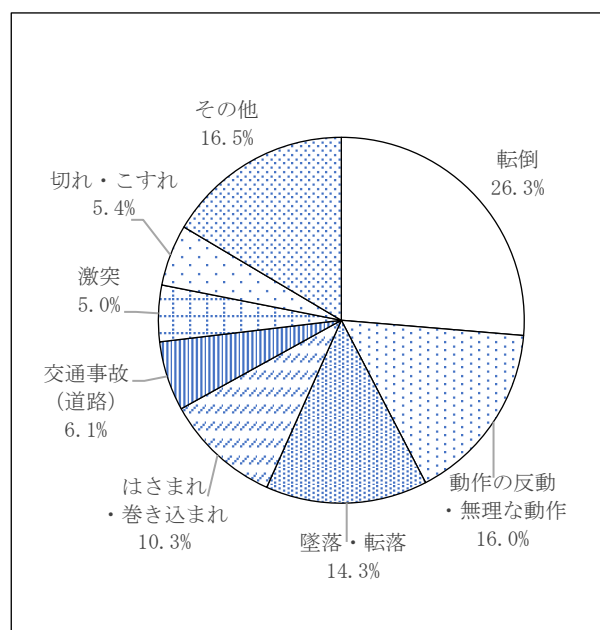


表5 事故の型別による業種別の死傷者数発生状況 (令和6年の多い順に上位5業種)

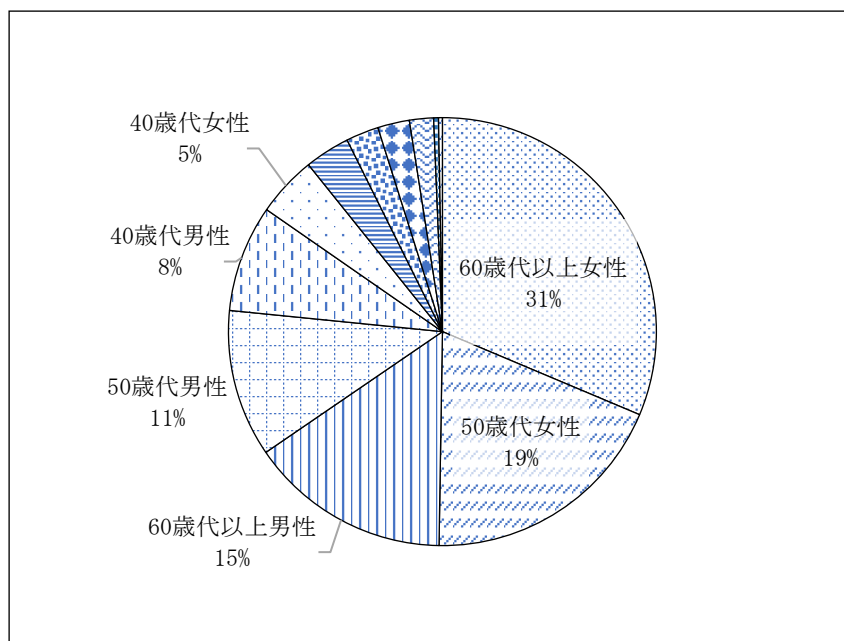
墜落・転落		令和5年	令和6年
全産業		727	747
陸上貨物運送業		142	148
建設業		144	130
製造業		124	122
商業		92	98
接客娯楽業		39	49

転倒		令和5年	令和6年
全産業		1,463	1,375
保健衛生業		291	281
商業		297	268
製造業		264	216
陸上貨物運送業		118	131
接客娯楽業		128	121

はさまれ・巻き込まれ		令和5年	令和6年
全産業		568	537
製造業		287	260
商業		57	72
陸上貨物運送業		60	66
建設業		52	35
清掃・と畜業		22	23

動作の反動・無理な動作		令和5年	令和6年
全産業		805	838
保健衛生業		224	271
商業		118	132
陸上貨物運送業		109	106
製造業		146	101
その他の事業		33	44

グラフ 5 事故の型（転倒災害）における性別一年代別 死傷者数の構成比（令和 6 年）



（３）年齢別

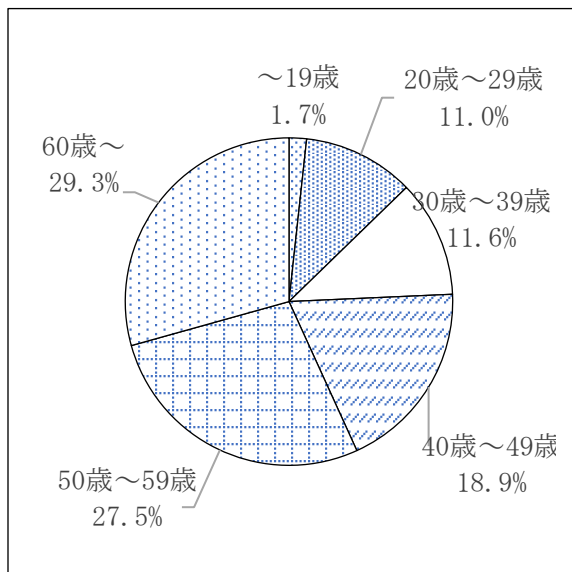
死傷者数を年齢別で見ると、多い順で、「60 歳～」1,532 人、「50 歳～59 歳」1,480 人、「40 歳～49 歳」891 人、「30 歳～39 歳」625 人、「20 歳～29 歳」589 人、「～19 歳」105 人となっています。

表 6 年齢別 死傷者数、構成比、対前年増減率

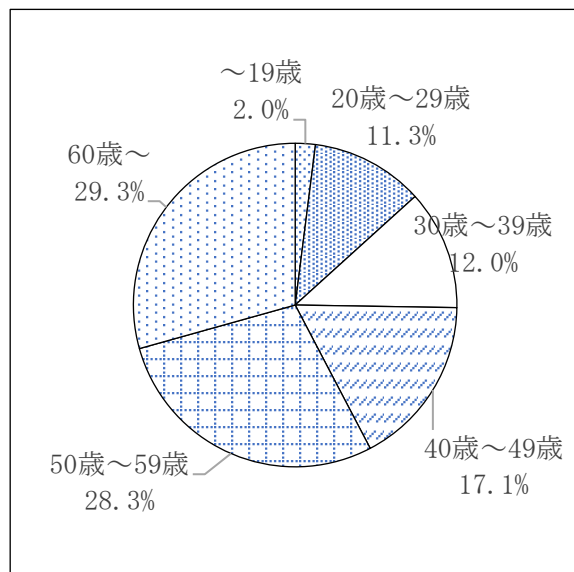
	死傷者数（人）		令和 6 年 構成比	令和 5 年／令和 6 年	
	令和 5 年	令和 6 年		増減数（人）	増減率
総数	5,278	5,222	100.0%	-56	-1.1%
60 歳～	1,548	1,532	29.3%	-16	-1.0%
50 歳～59 歳	1,450	1,480	28.3%	+30	+2.1%
40 歳～49 歳	998	891	17.1%	-107	-10.7%
30 歳～39 歳	610	625	12.0%	+15	2.5%
20 歳～29 歳	581	589	11.3%	+8	-1.4%
～19 歳	91	105	2.0%	+14	+15.4%

グラフ6 年齢別 死傷者数の構成比

【令和5年】



【令和6年】



(4) 災害の程度別

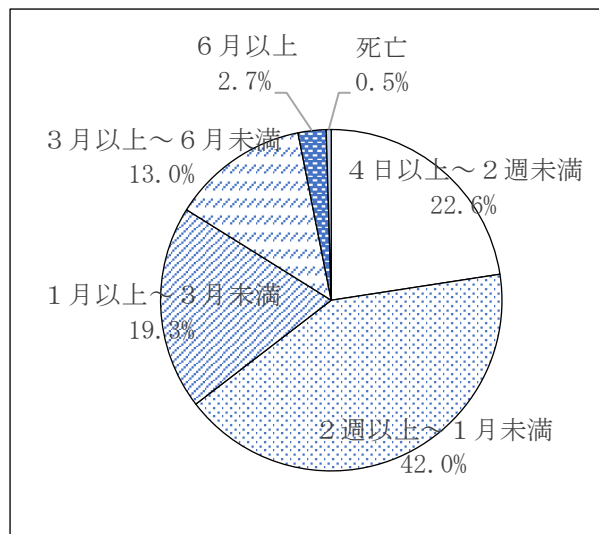
死傷者数を災害の程度別に見ると、多い順で、「2週以上～1月未満」が2,154人、「4日以上～2週未満」1,216人、「1月以上～3月未満」998人、「3月以上～6月未満」687人、「6月以上」136人となっています。

表7 災害の程度別 死傷者数、構成比、対前年増減率

	死傷者数（人）		令和6年 構成比	令和5年／令和6年	
	令和5年	令和6年		増減数（人）	増減率
総数	5,278	5,222	100.0%	-56	-1.1%
4日以上～2週未満	1,191	1,216	23.3%	+25	+2.1%
2週以上～1月未満	2,218	2,154	41.2%	-64	-2.9%
1月以上～3月未満	1,019	998	19.1%	-21	-2.1%
3月以上～6月未満	685	687	13.2%	+2	+0.3%
6月以上	140	136	2.6%	-4	-2.9%
死亡	25	31	0.6%	+6	+24.0%

グラフ7 災害の程度別 死傷者数の構成比

【令和5年】



【令和6年】

